

農家の所得増大へ

J A大会で決議採択

各務原市

県JAグループは第30回JA大会を各務原市蘇原中央町の市文化ホールで開き、2019～21年度の次期3カ年に向け、「協同の力で農業と地域を未来につなぐ」を共通方針とする大会決議を採択した。

県内7JAを含む岐阜中央会、岐阜信濃などグループの役員、青年部・女性部員ら約500人が参加した。大会長を務めたJA岐阜中央会の桜井宏会長が「農家組合員や地域の声に耳を傾け、JAが



今後3年間の共通方針を決議した県JA大会
＝各務原市蘇原中央町、市文化ホール

地域になくなくてはならなさつた。存在となるよう全力を尽くしたい」とあいさつした。大会では決議の具体的な方針として「農業

者の所得増大の実現」「協同による地域活性化への貢献」「総合事業機能発揮のための経営基盤強化」の3本柱を掲げた。日米物品貿易協定(TAG)交渉の農林水産品について、日米首脳間で確認した合意内容となるよう政府に求めていく特別決議も採択した。

大会後、立教大学院特任教授・慶応大名誉教授の金子勝氏が「農政の危険な方向とJAの果たすべき役割」と題して記念講演した。(岡田敬史)